

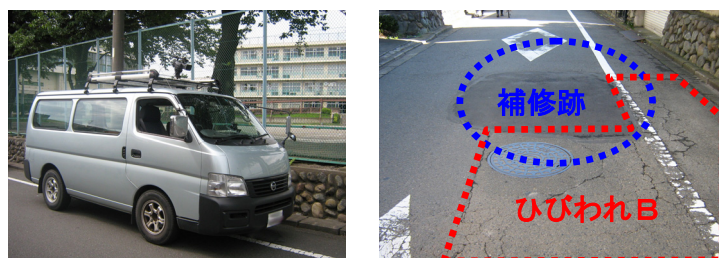
町田市 生活道路舗装管理計画及び道路点検

背景と目的

- 町田市が管理する道路は約1,200kmあり、今後は維持管理費用が増大することが予想されます。
- 生活道路（幅員4m以上・約560km）について、市民が快適かつ安全に道路を通行できるように、舗装状況を調査しました。
- 今後必要となる維持管理費用の検討を行い、年度毎の費用の平準化を図ることを目的とした「生活道路舗装管理計画」を策定しました。

舗装の現況調査

- 調査は、画像撮影車にて舗装の撮影を行い、撮影データを確認した後、調査員が現地にて目視による舗装状況の調査を行い、調査結果を整理しました。



調査項目と評価

- 舗装調査マニュアルを作成し、7種類の破損について調査しました。
- それぞれの破損種類に対して、補修の要望を考慮した評価の重み付けを設定しました。
- 舗装の調査結果と評価の重み付けを乗じて、舗装劣化状況の評価値を算定しました。
- 道路延長に対して同一の評価にするため、100m当りの評価値に換算しました。

調査結果(例) 町田1234号線 延長80m

破損種類	ランク	単位	重み付け	調査結果	評価値
ひびわれ	A (重度)	%	5.00	2	10
	B (軽度)		2.50	6	15
横方向・構造物付近の段差	A (重度)	箇所	5.00	0	0
	B (軽度)		2.50	1	2.5
縦断方向の段差	A (重度)	%	0.50	0	0
	B (軽度)		0.25	4	1
(工事) 復旧跡	A (重度)	箇所	5.00	1	5
	B (軽度)		2.50	0	0
ポットホール(穴ぼこ)	A (重度)	箇所	10.00	0	0
	B (軽度)		5.00	1	5
剥離・荒れ・劣化	-	%	1.00	9	9
応急的補修跡	-	箇所	2.50	1	2.5
評価値の合計					50
町田1234号線の評価値 (100m当りに換算: 50点÷80m×100m=62.5点)					62.5

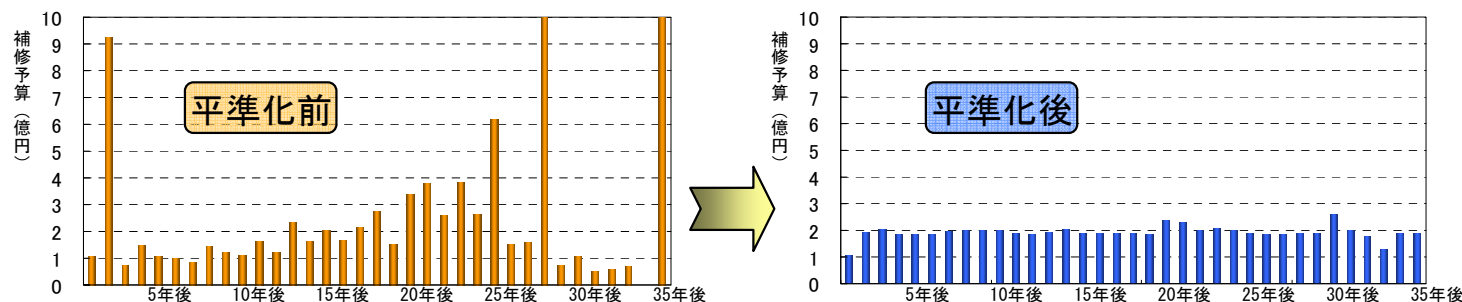
舗装劣化傾向と管理基準値

- 市内の舗装劣化傾向を分析し、経過年と損傷の分布状況から舗装の耐用年数を35年と推定しました。
- 現地調査の結果、評価値が60点を越えると劣化が著しく、補修の必要があると判断できました。また、補修の要望路線を分析すると、評価値60点の設定が適切な結果となりました。

管理基準値	総合評価値
■ 補修の必要なし	0~10
■ 当面補修の必要なし	10~25
■ 将来補修が必要	25~40
■ 近い将来補修が必要	40~60
■ 補修が必要	60~

中・長期計画

- 適切な維持管理を行うため、必要な予算について比較検討し設定しました。
- 予算の平準化を図った中長期計画を策定しました。

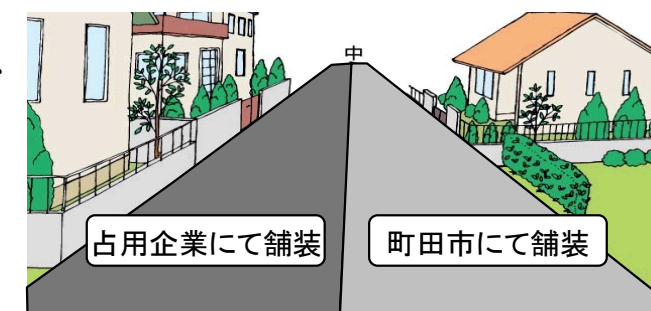


平準化後は、約2億円/年間の予算となり、中長期的に適切な舗装の管理が可能となります。

調査結果について、10年後の評価値を算定し、市内全域の舗装評価マップを作成しました。

効果

- 補修費用の集中投資が必要となる一定の時期について、平準化することができ、安定した予算執行が行えます。
- 調査結果に基づいた補修工事を行うことにより、優先順位が明確になります。
- 今後の展開として、占用企業（電気、ガス、水道等）による工事が予定されている路線については、占用企業と協力して工事を行う仕組みを確立し、工事費用の縮減と工事期間の短縮を図ります。



道路点検

- 舗装の現況調査に併せて道路点検を行い、道路破損箇所を発見した後、補修工事を行いました。
- 予防保全的に道路補修工事を行うことにより、道路事故を防ぐことが可能となります。



計画策定担当部署

- この計画の担当部署は、町田市建設部建設総務課です。